

こんな不当処分を許せるか



1988.4.7 No.2792

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二二七二〇七

区長に配転先や業務の説明を求めたら出勤停止！！コロコロ屋・上屋粹のデッチ上げで出勤停止

東日本千葉支社当局は四月四日、動労千葉組合員・役員を狙い打ちした強制配転攻撃に続いて、翌日の五日には理由ならざる理由、全くの不法・不当な重処分を二四名に加えるという「四・一」強行以来の最大の大暴挙に出てきた。もはや堪忍袋の緒は切れた！全組合員は心底からの怒りを燃やし、革マル松崎・鉄道労連解体・一掃、処分粉砕にまなじりを決して起ちあがる。

組合つぶしの不当・不法処分

今回の不当処分・強制配転は、動労千葉絶滅を狙う大攻撃であり、一片の正当性も説得性もない卑劣・非道そのものである。

区長に質問をしたことをとらえ「職場の規律を乱した」とか「管理者の命令に従わない」などと一方的に決めつけ、出勤停止等々の重処分を加える。組合員の抗議と処分理由の質問には何一つ答えず逃げまどっている。こうした当局の姿の中今回の処分がデタラメかつ不当な動労千葉つぶしそのものであることが証明されている。

敵のハラは処分恫喝をもって動労千葉（国労も）根絶一掃をはかり、もって労働強化、東日本六万人体制（二万三千人首切り）づくりを強引におし進めようとしていることにある。

われわれはきっぱりと宣言する！
当局の反動的思惑・願望はすでに見えていると！
見よ全組合員は、不当処分に対し全職場で、ただちに激しい怒りの抗議に起ちあがっている。この火は必ずや当局・松崎の反動をぶち破る巨大な炎となって燃えさからずにはおかない。
全組合員は被処分者・強制配転の仲間たちの怒

出勤停止	十五日	一名
出勤停止	十日	二名
出勤停止	五日	三名
減給		一名
戒告		一名
訓告		五名
厳重注意		十一名

理由などどうでもいい！
動労千葉をつぶすことだけが唯一の理由だ！

りを分ち合い、スクラムをしっかりと組んで総反撃にうって出よう。

革マル松崎こそ 不当処分・組織破壊の張本人

今回の不当処分攻撃は、幕張支部滝口、吉野、永瀧三氏に対し、実に一年前の土屋粹らによってしかけられた「四・七デッチ上げ事件」（警察さえあまりのデッチ上げゆえにサジを投げた）を理由として出勤停止・強制配転攻撃を加えてきている。このことにも表わされているように、一〇〇％革マル松崎が、会社当局に処分・配転を要請したものである。

今、全国各地の現場では闘う仲間たちの激しい鉄道労連弾劾の闘いが発展してきている。まさに松崎・鉄道労連は存亡の危機を迎えているといっても過言ではない。彼らは焦りと危機感を極限までつものらせ、自民党にこびへつらい、当局に国労動労千葉つぶしを必死で「要請」しているのが現実である。

権力・当局に癒着し、一見「強力」に見えた鉄道労連は今やハリコの虎と化している。彼らの目茶苦茶性と凶暴化は、彼らの危機の深さを物語っているのだ。

ファシスト革マル・松崎打倒、自民党を支持する鉄道労連解体・一掃の総反撃の勢いをとどめることはできない。

人を人とも思わないやり方、人権や権利をふみにじり恬として恥じない松崎・会社当局に人間として、労働者としての激しい怒りをこめ、徹底弾劾にたちあがる。

四・九国鉄労働者集会、四・一四抗議集会の大成をバネに、新たな進撃を開始しよう！
満を持して反撃へ！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！